

SDGs宣言書

2022年7月26日

住所	東京都福生市大字熊川 1 6 4 2 番地 2 6
氏名	代表取締役 江原 直行

当社は、以下の内容にて、SDGsへの取組を推進して参ります。

○各ゴールに関連する取組内容

ゴール (ナンバー)	SDGs達成に向けた重点的な取組 ／2030年3月までの取組目標	課題認識・目標設定背景	目標達成等に向けた 具体的な取組内容
7,12	CO2排出量の抑制 (社用車に占めるHV車：2021年16%→ 2030年100%) (2030年までに電力使用量を2021年対 比15%削減) 3Rを積極的に取り組む(2030年まで に弊社製品のリサイクル率30%)	製品の開発・製造過程及び本社業務に おける電力・燃料消費の効率化を図る ことにより、脱炭素社会の実現が必 要。不要となった弊社製品の回収、希 少資源の再利用促進(3R：リサイクル・リ ース・リデュース)	<ul style="list-style-type: none"> 社用車のリース更新時にGS→HVへ切替。 社内電灯のLED化を推進。 受電効率を最適化するためにキュービクルを更新。 各種炉を新型省エネ炉へ随時更新 沃素化合物の再利用
2, 6, 9, 15	国際原子力機関(IAEA)の品質基準等を 満たす製品群を開発 (関連製品売上：2021年3億5千万円 →2030年4億2千万円)	高性能・高品質な放射線測定機器の開 発により、食品・水衛生、陸域生態系 等多岐に亘る安全・品質保障の更なる 確保に貢献。	<ul style="list-style-type: none"> 良質なシンチレータ結晶の製造に不 可欠なNaI剥離炉・成長炉・アニール 炉並びに炉内制御盤等の随時更新。 組込用コンピュータのソフトウェア 自社開発(社員養成中)による信頼 性の高い放射線測定器の製造。
9,17	様々な産業化の推進及び技術革新に不 可欠な半導体製造に掛かるサプライ チェーンとしての役割を担う (関連製品売上：2021年2億2千万円 →2030年2億7千万円)	当社の合成光学結晶が組み込まれた半 導体製造装置の他、産業・学術研究に 使用される各種装置でも当社の高精度 光学レンズが活用されており、技術革 新の基盤づくりに貢献。	<ul style="list-style-type: none"> ブラザーシスター制度及びOJTの併 用による職人技術の高度化・承継。 偏光度測定装置等の随時更新。 生産効率(歩留率)が低く老朽化し た光学結晶成長炉を積極的に換装。
5, 8	女性社員の積極採用・比率向上 (女性社員比率：2021年18名/65名 →2030年22名/69名)	業務内容・労働環境から男性社員の比 率が高いが、事務・営業・その他の管 理を担う配置等においては、きめ細か な配慮に優れた女性目線の職場環境整 備が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 産休・育休制度の積極的な啓蒙。 (2015年以降制度活用実績無し) 有給休暇10日以上保持者に対する 推奨取得日数を段階的に最低5日 以上→最低10日以上を目指す。 女性管理職の育成を推進。